



能・狂言  
フェスティバル



開場・15時 開演・15時30分〔終了・17時30分予定〕  
平成26年1月12日〔日〕

# さいたま 新春能・狂言

能  
葵上 長島茂

狂言  
棒縛 野村萬斎

解説  
能鑑賞案内 「お話」大島輝久



## 能・狂言フェスティバル

さいたま新春能・狂言以外の催し

喜多流能楽師・長島茂師による「さいたま新春能・狂言」解説講座

- 平成25年12月7日〔土〕14:00～終了16:00(予定)
- さいたま市文化センター 大集会室
- 1月12日〔日〕の「さいたま新春能・狂言」チケット購入者は無料。それ以外の方は500円。  
※事前申込制

### さく楽座発表会(能・狂言)

- 平成26年1月12日〔日〕開演:11:00～終了14:30(予定)
- さいたま市文化センター 小ホール
- 入場無料

### 能・狂言・お囃子ワークショップ

- 平成26年2月2日〔日〕10:00～終了15:30(予定)
- 市民会館おおみや 小ホール・集会室・和室
- 1人1,000円 ※対象:小学生～大人

※詳細はそれぞれの別紙ご案内をご覧ください。

## さいたま市文化センター 小ホール

チケット料金  
全席指定  
S席 4,000円  
(SaCLa友の会料金 3,800円)  
A席 3,500円  
(SaCLa友の会料金 3,300円)  
B席 3,000円  
(SaCLa友の会料金 2,800円)

プレイガイド  
平成25年10月19日(土) 10:00より発売  
SaCLaインフォメーションセンター 048-866-4600  
インターネット購入(事業団ホームページ) <http://www.saitama-culture.jp/>  
平成25年10月20日(日) 10:00より発売  
さいたま市文化センター 048-866-3171 ブラザウエスト 048-858-9080  
さいたま市民会館うらわ 048-822-7101 東大宮コミュニティセンター 048-667-5604  
さいたま市民会館おおみや 048-641-6131 宮原コミュニティセンター 048-653-8558  
さいたま市民会館いわつき 048-756-5151 西部文化センター 048-625-3851  
ブラザイスト 048-875-9933 片柳コミュニティセンター 048-686-8666

主催:(公財)さいたま市文化振興事業団 共催:さいたま市  
協力:公益財団法人十四世六平太記念財団、万作の会

※未就学児の入場はご遠慮願います

●お問い合わせ: SaCLaインフォメーションセンター 048-866-4600 <http://www.saitama-culture.jp/>

# さいたま 新春・能・狂言

市民のみならず、日本の伝統芸能の粋である能と狂言をより身近に感じていただく試みとして取り組んでおります「能・狂言フェスティバル」。その中心ともいえる公演が『さいたま新春能・狂言』です。今回はシテ方・喜多流職分でさいたま市在住の能楽師・長島茂さんと狂言のみならず多彩な活動をされている野村萬斎さんをお迎えして、新春の芸術の宴をお届けします。

## ●解説

能鑑賞案内 「お話」 大島輝久

## ◆狂言

棒 縛 太郎冠者 野村 萬斎

主 竹山 悠樹  
次郎冠者 深田 博治

後見 内藤 連

休憩二十分

## ◆能

巫女 佐々木多門

六条御息所の怨霊 長島 茂

葵 上 横川の小型 宝生 欣哉

大鼓 佃 良太郎 太鼓 林 雄一郎  
小鼓 田邊 恭資 笛 藤田 貴寛

大臣 御厨 誠吾

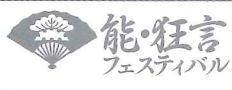
大臣内の者 月崎 晴夫

後見 中村 邦生  
栗谷 浩之

地謡 塩津 圭介 内田 成信  
友枝 真也 狩野 了一  
大島 輝久 友枝 雄人

## 附祝言

(終了予定) 十七時三十分頃



## ●あらすじ

### 棒縛 (ぼうしばり)

二人の家来が、留守番中に酒蔵の酒を飲みこんでいると知った主人は、太郎冠者を棒に、次郎冠者を後ろ手に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が謡えや舞えやと大騒ぎしているところ、自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品です。観ているこちらも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つです。

### 葵上 (あおいのうえ)

実家の左大臣邸に病臥する光源氏の正妻の葵上は、格別に執念深い怨霊に苦しんでいた。朱雀帝の臣下は照日の巫女にその正体を占うよう命じる。霊を呼び寄せるために打つ梓弓の物憂い音が響くなか、巫女は破れ車に乗る六条御息所と供の女性を目にする。激しい怒りと悲しみから魂が肉体を抜け出してしまった御息所。皇太子妃のころと変わってみじめな境遇に落ちた現在を嘆くと、葵上を打ち据え、破れ車に乗せて連れ去ろうとする。臣下は横川の小型を招く。鬼の相貌となつて再び現れた御息所に対し、小型は不動明王の力を頼み激しい祈禱を行う。ついに御息所は折伏され、即身成仏を遂げるのであった。



### 長島 茂

ながしま・しげる  
シテ方・喜多流職分。重要無形文化財保持者、日本能楽会会員、喜多流職分会会員、能楽協会会員、広島花の会同人、国立能楽堂第3期生講師。昭和34年、広島県福山市に生まれる。昭和40年に初舞台 仕舞「金札」、昭和45年「経政」で初能。昭和49年、故十五世宗家喜多美の内弟子として入門、故十五世宗家喜多美及び友枝昭世に師事。昭和62年「狸々乱」、平成4年「道成寺」、平成13年「翁」、平成14年「石橋」、平成19年「望月」を披く。東京・大宮・大阪・和歌山・御坊・福山・広島の新種古場にて指導中。さいたま市在住。



### 野村 萬斎

のむら・まんさい  
1966年生。野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出するなど幅広く活躍。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊国屋演劇賞、2012年度芸術祭優秀賞を受賞。著書に『萬斎でござる』『MANSAI◎解体新書』(朝日新聞出版)『狂言サイボーグ』(日本経済新聞社)、『狂言三人三様・野村萬斎の巻』(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。



## さいたま市文化センター

〒336-0024さいたま市南区根岸1-7-1  
TEL.048-866-3171 FAX.048-837-2572  
※電話・FAX番号のおかけ間違いのないよう十分ご注意ください。  
●電車でお越しの方  
JR京浜東北線・武蔵野線 南浦和駅西口より徒歩7分

### ●駐車場について

134台(地上82台/地下52台 高さ2.1m)  
最初の1時間以内は無料。  
1時間超から1時間30分以内は210円以後30分(30分に満たないときは30分とします)ごとに105円を加算します。(10円未満切り捨て)  
※駐車場に限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。  
※会場にて飲酒をされるお客様はお車を運転しての来場はご遠慮下さい。